

## 第1章 「キャリアデザインプログラム」

### 1. キャリアデザインプログラム基幹科目の受講状況

#### (1) キャリアデザインプログラム基幹科目受講者数

はじめにキャリアデザインプログラム基幹科目について、受講中もしくは受講したことがある科目について複数回答可として回答を得た。図表1-1に科目別受講者数を示す。

「お茶の水女子大学論」の学部生受講者割合は34.1%、同様に博士前期では29.5%、全体では33.1%であった。ついで「キャリアプランとライフプランⅠ」学部生7.2%、「女性リーダーへの道（入門編）」学部生6.5%である。その他の科目での受講者割合は3-5%となっている。キャリアデザインプログラム基幹科目は、「お茶の水女子大学論」が大学での学びの方向付けとして位置づけられ、1年次での履修が推奨されているが、推奨の効果であると推察される。

図表1-1. キャリアデザインプログラム基幹科目受講者数

科目名	学部生%		修士院生%		計	
	(%)	(人)	(%)	(人)	(%)	(人)
「お茶の水女子大学論」	34.1%	193	29.5%	44	33.1%	237
「女性リーダーへの道（入門編）」（「パーソナル・ブランディング」）	6.5%	37	8.7%	13	7.0%	50
「女性リーダーへの道（実践入門編）」（「ファシリテーション」）	1.8%	10	2.0%	3	1.8%	13
「女性リーダーへの道（ロールモデル入門編）」（「女性のキャリアと経済」）	4.9%	28	5.4%	8	5.0%	36
「ことばと世界12 知能環境論」	1.2%	7	0.7%	1	1.1%	8
「情報コミュニケーション技術と創発性」（「ICTとコミュニケーションスキル」）	2.5%	14	1.3%	2	2.2%	16
「キャリアプランとライフプランⅠ」（「キャリアプラン」）	7.2%	41	6.7%	10	7.1%	51
「キャリアプランとライフプランⅡ」	1.4%	8	1.3%	2	1.4%	10
「キャリアプランニング実習」（「キャリアプランと進路選択」）	2.8%	16	0.0%	0	2.2%	16
「働く女性の権利と地位」（「女性のキャリアと法制度」）	0.5%	3	0.7%	1	0.6%	4
「共生社会で働く」（「ダイバーシティ論」）	2.3%	13	0.0%	0	1.8%	13
「インターンシップ」「インターンシップⅠ」「インターンシップ（大学院）」	2.8%	16	6.7%	10	3.6%	26
「インターンシップⅡ」（平成28年新設）	0.4%	2	0.7%	1	0.4%	3

注.平成29年度より科目名を変更した科目は新名称を（ ）に記載。

## (2) キャリアデザインプログラム平均受講科目数

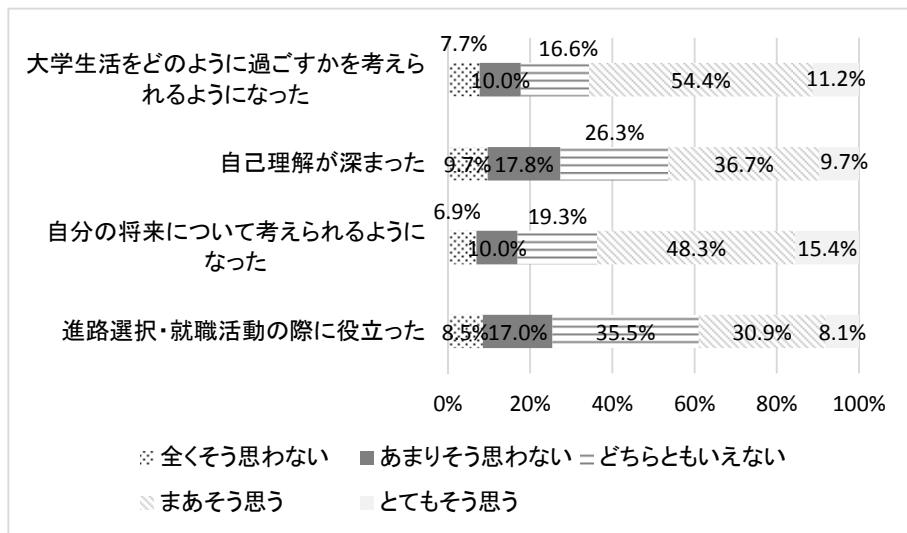
図表 1-2 は、キャリアデザインプログラム基幹科目に関する受講経験をもとに算出した対象者におけるキャリアデザインプログラム基幹科目の受講者数の記述統計である。学部生でキャリアデザインプログラム基幹科目について 1 科目でも受講したことがあると回答した学生の割合は、46.1%であり、同様に博士前期では 47.0%である。約半分の割合の学生が 1 つ以上のキャリアデザインプログラム基幹科目を受講しており、キャリア教育が徐々に浸透している。

図表 1-2. キャリアデザインプログラム平均受講科目数

種別	受講者割合 (人)	平均履修科目数	範囲
学部生	46.1% (261)	.69	0-7
修士院生	47.0% ( 70)	.64	0-3

## 2. キャリアデザインプログラム基幹科目に対する学生の評価

次にキャリアデザインプログラム基幹科目を受講した学部生 259 名および修士 69 名を対象に「受講したキャリアデザインプログラムの授業について、あなたの考えに最もあてはまる数字を『1 まったくそう思わない』～『5 とてもそう思う』から 1 つ選んでください」として 4 つの項目について尋ねた。結果を図表 1-3,4 に示す。



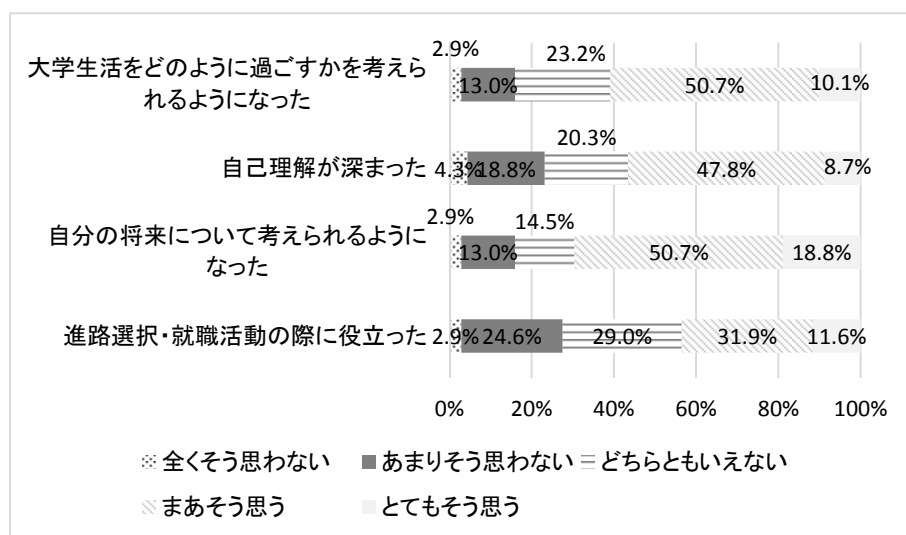
図表 1-3. キャリアデザインプログラム基幹科目受講者の評価 (学部生)

はじめに、「大学生生活をどのように過ごすかを考えられるようになった」は、「まあそう思う」54.4%、「とてもそう思う」11.2%である。約 6 割の学生がキャリアデザインプログラム基幹科目の受講を通じて大学生生活をどう過ごすかを考えている。次に、「自己理解が深まった」は、「まあそう思う」36.7%、「とてもそう思う」9.7%と約半数が自己理解を深められたと回答している。

「自分の将来について考えられるようになった」は、「まあそう思う」48.3%、「とてもそう思う」は15.4%であり、受講生のうち63.7%がこれらの科目を通じて自分の将来について考えるきっかけを得たようである。「進路選択・就職活動の際に役立った」は、「まあそう思う」30.9%、「とてもそう思う」8.1%であり上記の3項目に比べると役に立ったという該当率（「まあそう思う」と「とてもそう思う」の合計）は低い。

同様に修士の結果について図1-4に示す。「大学生活をどのように過ごすかを考えられるようになった」は、「まあそう思う」50.7%、「とてもそう思う」10.1%である。約6割の学生がキャリアデザインプログラム基幹科目の受講を通じて大学生活をどう過ごすかを考えている。次に、「自己理解が深まった」は、「まあそう思う」47.8%、「とてもそう思う」8.7%と半数以上が自己理解を深められたと回答している。

「自分の将来について考えられるようになった」は、「まあそう思う」50.7%、「とてもそう思う」は18.8%である。「進路選択・就職活動の際に役立った」は、「まあそう思う」31.9%、「とてもそう思う」11.6%であり学部生同様に上記の3項目に比べると役に立ったという該当率（「まあそう思う」と「とてもそう思う」の合計）は低い。



図表 1-4. キャリアデザインプログラム基幹科目受講者の評価（修士院生）

以上の結果から、キャリアデザインプログラム基幹科目の受講によって、約6割程度の学生は自分の将来や大学時代の過ごし方を考えるようになることが明らかになった。また自己理解を深めるとする学生も半数に上ることが示された。しかし、進路選択や就職活動などの個別性があり、また実践的なキャリア支援は、授業で取り上げることが少ない。よって進路選択・就職活動に役立つという評価が得られないことが推察された。